

ツクシヒトツバテンナンショウ  
*Arisaema tashiroi* Kitamra

選定理由 九州の特産種。本県の生育地は「祖母・傾山地」に点在し、個体数も極めて少ない。植生遷移の進行や人による踏みつけなどで、絶滅の危険性が高い。

県内分布 祖母・傾山地

サトイモ科  
Araceae

分布域 九州(大分・宮崎・鹿児島)

カテゴリー

大分県 IB  
環境庁 掲載なし

生育環境 山地の林内や林縁。

現 状 スズダケの密生により衰退している所がある。

ナンゴクウラシマソウ  
*Arisaema thunbergii* Bl.

選定理由 県内では海岸から内陸の丘陵地まで分布している。海岸林などにまとまった個体数のみられる所があるが、生育地は点在している。森林伐採や林内の攪乱などで、生育環境の悪化が懸念される。

県内分布 耶馬溪・国東丘陵地，九重火山群，由布・鶴見火山群，大分川・大野川丘陵地，豊後水道域，豊後水道後背地域

サトイモ科  
Araceae

分布域 本州(中国地方) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

カテゴリー

大分県 準  
環境庁 掲載なし

生育環境 丘陵地や低地の林縁，林内。

現 状 以前はかなり多くの個体数がみられたが，群生する生育地が少なくなっている。

イヌノヒゲ  
*Eriocaulon miquelianum*  
Koern.

選定理由

県内分布 (中津・宇佐低地)

ホシクサ科  
Eriocaulaceae

分布域 本州 四国 九州(熊本・大分・宮崎・鹿児島)  
中国

カテゴリー

大分県 情報不足  
環境庁 掲載なし

生息環境 低地の池畔や湿地。

現 状 「中津・宇佐低地」の標本はあるが，その生育地は把握されていない。